

2008年9月に
横須賀を母港とした
原子力空母
ジョージ・ワシントンは、
2009年、2010年と
2年続けて、横須賀基地で
定期修理を実施しました。
コンテナに詰められ
輸送船が運び出した
放射性廃棄物は、
この定期修理に伴って
生じたものです。

作業中の原子力空母の飛行甲板



原子力空母の定期修理は、
放射線管理の仕事を
任務とする
米国から派遣された
650人の技術者によつて
行なわれました。
派遣元は
ピュージェット・サウンド
海軍造船所。

